

項目	【基準範囲】	女性	単位	臨床的意義
	下限	上限		
RSウイルス抗原(拭い)	陰性		(定性)	呼吸器感染症の原因となるウイルスです。多くは風邪のような症状ですみませんが、1歳未満の乳児や免疫力の低下した場合には細気管支炎など重症となる場合があります。
アデノウイルス抗原(拭い)	陰性		(定性)	咽頭結膜熱の原因となるウイルスです。プール熱とも呼ばれる夏季に流行する感染性の強いウイルスです。
A群溶血性連鎖球菌抗原	陰性		(定性)	細菌性咽頭炎の原因となる細菌です。抗菌薬による治療が可能であり、抗原検査による迅速診断が重要とされます。
尿中レジオネラ抗原	陰性		(定性)	レジオネラは肺炎の原因となる細菌として知られ、温泉や循環型浴槽など水気のあるところに潜んでいる菌です。診断がつくことでレジオネラに効果のある抗菌薬治療を行うことが可能となります。
肺炎球菌莢膜抗原定性(尿・髄液)	陰性		(定性)	肺炎の原因となる細菌で最も多いのが肺炎球菌です。診断がつくことで肺炎球菌に効果のある抗菌薬治療が可能となります。
インフルエンザウイルス抗原(拭い)	陰性		(定性)	国内で冬季に大流行するインフルエンザのウイルスを検出する検査です。インフルエンザウイルスを検出することで、必要に応じて抗インフルエンザ薬を投与することが可能となります。
ロタウイルス抗原(糞便)	陰性		(定性)	小児の胃腸炎の主要原因ウイルスです。感染力が強く、嘔吐・下痢による脱水症状が起こります。
アデノウイルス抗原(糞便)	陰性		(定性)	小児の胃腸炎の主要原因ウイルスで、発熱・嘔吐・下痢といった消化器症状を起こします。
クロストリジウムデフィシル抗原・トキシン検査(糞便)	陰性		(定性)	腸炎を引き起こすクロストリジオイデス・デフィシルという細菌が作る毒素を検出する検査です。抗菌薬投与中や投与後にみられます。
ヒトメタニューモウイルス(hMPV)抗原	陰性		(定性)	呼吸器感染症の原因となるウイルスです。小児で流行し気管支炎や肺炎など重症となる場合があります。
ノロウイルス抗原	陰性		(定性)	冬季に流行するウイルス性胃腸炎の原因ウイルスです。糞便や嘔吐物を介して、またはウイルスを含む2枚貝を加熱せずに食べた場合などに感染します。感染力が強いため手洗いなどの手指衛生が重要となります。
マイコプラズマ抗原	陰性		(定性)	しつこい咳が特徴で、気管支炎や肺炎などの原因となる細菌として知られています。診断がつくことで、マイコプラズマに効果のある抗菌薬治療が可能となります。
抗ストレプトリジンO(ASO)	250 未満		IU/mL	溶連菌(A型β 溶血性連鎖球菌)が産生する毒素であるストレプトリジンOに対する抗体価を測定する検査であり、溶連菌に感染すると血清中にこの抗体が増加するため、溶連菌感染の診断に用いられます。
クリプトコックス抗原	陰性		(倍)	呼吸器感染症や髄膜炎の原因となる真菌です。真菌の胞子を吸い込むことで感染が起こります。

項目	【基準範囲】	女性	単位	臨床的意義
	下限	上限		
梅毒血清反応 (STS)	陰性		(定性)	性行為感染症 (STD) である梅毒の検査で、検査法には梅毒血清反応 (STS) と梅毒トレポネーマ抗体を検出する方法の2種類あり、これらの結果を用いて感染の判定を行います。STSは梅毒トレポネーマと交叉抗原性を有するリン脂質抗原 (カルジオリピン) に対する抗体を検出する方法で、肝疾患やウイルス感染、自己免疫性疾患などで抗カルジオリピン抗体が産生されると、梅毒未感染でも陽性となることがあります (生物学的偽陽性)。梅毒トレポネーマ抗体を検出する方法では、梅毒に対する特異抗体を検出し、感染の有無を確認します。一度抗体を獲得すると長期間陽性となるため、梅毒の既往を知るのに有用とされます。 【結果の判定】 ① STS及びTP陰性の場合：梅毒非感染、梅毒感染後初期 ② STS陽性及びTP陰性の場合：STSの生物学的偽陽性、梅毒感染初期 ③ STS陰性及びTP陽性の場合：梅毒治療後 (既往) ④ STS及びTPともに陽性の場合：梅毒感染
	1.0 未満		R.U.	
梅毒トレポネーマ抗体 (TP)	陰性		(定性)	AIDS (acquired immunodeficiency syndrome: 後天性免疫不全症候群) の原因ウイルスであるヒト免疫不全ウイルス (HIV) の感染の有無や治療効果の判定に用いられる検査です。 通常、HIV感染後に抗体が陽性となるまで4~8週間要しますが (この期間をウインドウ期と呼ぶ)、この検査ではHIV-1抗体およびHIV-2抗体、またHIV p24抗原を同時に検出することが出来るため、抗体産生までのウインドウ期においても検出が可能です。
	10.0 未満		T.U.	
HIV抗原/抗体	1.0 未満		C.O.I	成人T細胞性白血病 (ATL) の起因ウイルスであるHTLV- I に感染した大部分の患者が抗HTLV- I 抗体を保有しているため、ATLやHTLV- I 関連脊髄症の診断補助、HTLV- I の母から児への垂直感染や性行為等による水平感染が疑われた場合の検査として有用です。 また、HTLV- II はHTLV- I と類似のウイルスであり、脊髄障害との関連が示唆されています。この検査では抗HTLV- I 抗体および抗HTLV- II 抗体を同時に検出することが可能です。
HBs抗原	0.005 未満		IU/mL	B型肝炎の原因ウイルスである、B型肝炎ウイルス (HBV) 感染の有無やHBVワクチンの効果判定に用いられる検査です。 HBs抗原はB型肝炎ウイルス (HBV) の感染で陽性となり、HBc抗体はHBV保持者およびHBV既往感染で陽性となります。急性B型肝炎ではHBs抗原が一過性に陽性となった後、早期に陰性化する場合もあるため、HBc抗体の測定がその診断に有用となることがあります。また、HBs抗体陽性はHBVに対して免疫を有することを意味し、HBVの既往感染やHBVワクチンの効果判定に用いられます。
HBs抗体	10.0 未満		mIU/mL	
HBc抗体 半定量・定量	1.0 未満		C.O.I	
HCV	1.0 未満		C.O.I	C型肝炎ウイルス (HCV) の抗体を検出する検査です。HCVは急性肝炎を起こすほか、ウイルスが排除されない場合は慢性化し、10年以上の長い年月を経て肝硬変から肝細胞癌に進行します。この検査ではC型肝炎の診断の補助と輸血後肝炎の予防に有用とされています。